

松崎 拓也

東京理科大学理学部第一部応用数学科
准教授

読解に困難を抱える生徒を支援するための言語処理に基づくテキスト表示技術

§ 1. 研究成果の概要

文章の表示形態に加え、語彙や構文的な書き換えを通じた読解支援の効果についての実験調査、および、読解を阻害する要因を探るための実験調査を、小中学生約 4000 名を対象として行った。また、読解課題の成績と国語・数学(算数)の学力調査の成績の関連について分析を行った(図 1)。読解に関する実験調査は、教科書から採った短いテキストを主に用いた読解力テストであるリーディングスキルテスト(RST)の問題を利用して行った。また前年度から継続して、教科書テキストに対する解析器の分野適応に関する基礎研究を進めた。さらに、定義と例に関する読解問題に対する正答率および回答時間に関する分析結果と、小中の理科教科書に対するテキスト分析の結果を対比し、定義と例に関する読解能力の伸長と教科書の複雑さの増大の間に大きなギャップがあることを明らかにした。

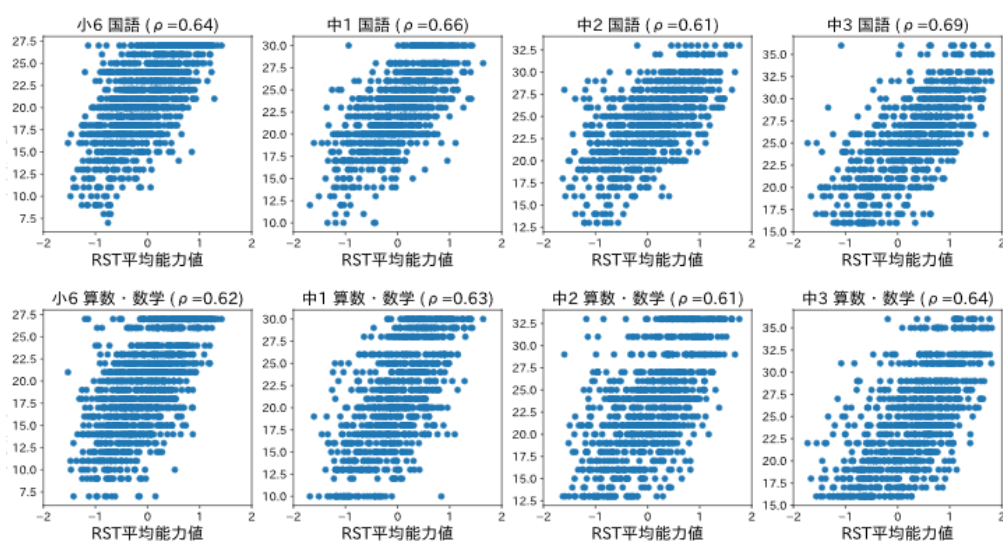


図 1：読解課題成績（横軸）と学力調査成績（縦軸）